

キャラクター名
弥生ナナナ

プレイヤー名

シンドローム、ワークス、高校生、カヴァー、高校生の属性表

基本値、ワークス、ボーナス、成長、他修正、能力値、HP、行動値、(非装備時)、戦闘移動、全力移動の属性表

肉体、感覚、精神、社会の属性表

武器・コンボ、能力、命中値、G値、攻撃力、射程、メモの属性表

防具、価格、装甲、回避、行動、メモの属性表

所持品の属性表

合計装甲、合計回避の属性表

ロイスの属性表

最大財産、残り財産の属性表

スキル名の属性表

【説明】
数日前に道端に落ちていた謎のアイテムを拾って覚醒してしまったオーヴァードの少女。腕のように見えなくもないが、丁度杖のようだったので魔女の持つ杖として使用しているようだ。自分のことを『魔女』と若干自嘲的に、子供っぽいと思いつつも抑鬱しているが、レネゲイドのことを知らない弥生はエフェクトをそう呼ぶしかないのだ。
攻撃方法は対象の時間軸を強引に現在から『ズラし』、それによって発生する時間の亀裂に対象を巻き込むことでダメージを与える。弥生曰く「時間を巻き戻す/進めることには強いエネルギーが必要っぽい。んで、作用反作用の法則だっけ。あれのせいで振り戻しのときのエネルギーもめっちゃ強くて、それが全部その人に行く……っぽいね。もう少しちゃんと制御すれば軽減できるケド」。
彼女の言う『魔法』は専ら確定した運命を、時間を戻すことで変化させることに特化している。時間に関するのなら凡そ何でもできるが、それはごく短い期間にすぎず、限界を超えて大きく時を戻すような能力を使うごとに肉体や精神が融解していく。何故わかるのか……？ 弥生には自分の寿命が『火の点いた蠟燭』または『逆さの砂時計』のような形で見えるらしく、時間を操作することに炎の勢いが増大するのだ。尤も弥生の寿命はオーヴァードとなった時点でも、残り半年程度であるが……。
弥生ナナナは元々病弱であり、病院と自宅を往復するような生活が日常茶飯事だった。学校に毎日行けるわけでもなく、寧ろ休んでしまうことが多い。家にいる時には専ら大好きな和菓子ばかりを作っており、外で発作が起きてはいけけないため外出も殆どできない。そんな彼女にとって、同じ病室にいた心臓病の少年を想ってしまうのは必然だったのかもしれない。
ある日、弥生が偶々病院を歩いているとその少年の両親が何かを話しているのが聞こえた。主な内容は少年の病状や容体に関するものだったが、本人がいないところということもあって、普段は言わないだろう暗い話も混じっていた。このままでは緩やかに症状が悪化していくだけだということ、あと何年生きられるかは分からないこと。そして、手術にかかる金をとても家族だけでは工面できないことなどだった。
弥生は思う。
——ああ、それならいいし。私がやってやるわ、どうせなら……。どうせ余命宣告されてる身なんだし、最後まで他人のために燃やしたって構わないっぽい。それくらいの自由はあってしかるべきっぽい？ 人間として生まれて、ただただ他人に迷惑かけるだけかけて死ぬなんて真っ平だと思っただころだし